

研究テーマ：文字によるコミュニケーション能力を高めるにはどうすればよいか

所属 高知県立室戸高等学校

氏名 今村 加代子

RG SH1

【アクション・リサーチⅠ】

1 研究の背景

本校は総合学科で、英語は1年生英語Ⅰ（4単位）2年生OCA（1単位）、3年生OCA（1単位）が必修科目となっている。そのため、英語のその他の科目はすべて選択科目である。ライティング2（2単位）は3年生の選択科目で9名が選択している。少人数のため授業中は静かで比較的授業を行いやすいクラスである。英語が受験に必要な生徒が選択している科目ではあるが、「簡単な英作文を作ることができない」、「文の並べかえはどうしたらよいかわからない」という生徒が多い。基本的事項が理解されていない生徒に、英語の基礎（英語力）をしっかりと身に付けてもらいたい。

2 リサーチ・クエスチョン

文字によるコミュニケーション能力（読む力・書く力）を高める指導はどうすればよいか

3 予備調査

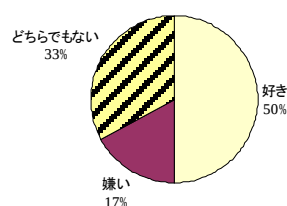
（1）授業観察の結果

穴埋めで英作文をすることはできるが、前後の英文がない状態で、作文をすることは苦手である。また、家庭学習時間が短く、学習した時は覚えていても、時間が経つと忘れてしまうという生徒が多い。

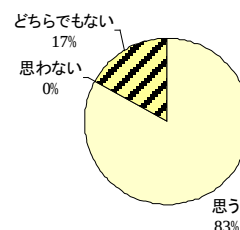
（2）生徒の学習意識

アンケート分析結果

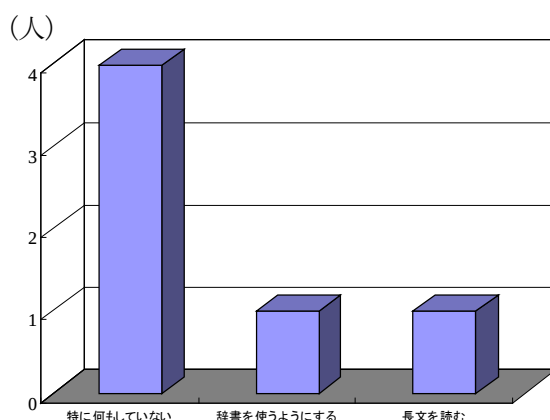
ア．あなたは英語が好きですか。



イ．あなたは英語が必要だと思いますか。



ウ．あなたは英語力をつけるためにどういう努力をしていますか。



英語が好きな生徒が5割で、8割以上の生徒が英語の必要性を感じている。しかしながら、英語力を付ける努力をしていない生徒がほとんどである。高校生の家庭学習時間が30分未満の生徒が7割弱という全国調査の結果と同じように、家庭学習の習慣が付いていない生徒が多いことがわかる。

(3) 英語力を示すデータ

基礎学力テスト平均点

	WR2 選択生	3 年生全員
平均点	93.4	67.1

4 仮設の設定

仮説1 使える英文、頭の中の引き出しに入っている英文を増やすために本文を暗記するほど覚える。

仮説2 既習事項を忘れないように定着させるために、復習する機会を増やす。

仮説3 自分のことを英語で表現できるようにすることに慣れる。

5 計画の実践

実践1 本文穴埋めテストの実施。本文の内容を穴埋めするのだが、3 回分あり、穴埋めの個数が回を重ねるごとに増加する。

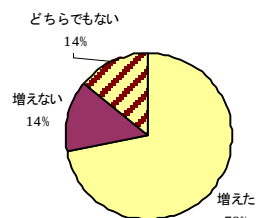
実践2 各レッスンが終了するごとに「理解度チェックテスト」を実施する。

実践3 定期テストで自由英作文を出題する。短く平易な英文に数多く触れ、覚える。

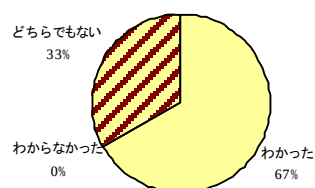
6 結果の検証

アンケート分析結果

ア. 本文の内容を暗記するプリントを毎レッスン実施し、使える英文を増やそうとしていますが、使える英文が増えましたか。



イ. 2004 年を振り返って授業の内容を理解できましたか。



生徒の実感として、7 割以上の生徒が「使える英文が増えた」と感じている。また、これまでの授業を振り返って、7 割弱の生徒が「授業内容を理解できた」と思っており、「わからなかった」と答えた生徒は0%である。実際、9 月に実施した基礎力診断テストを12 月にも実施してみたが、基本的な文法事項でミスをする生徒が減少し、徐々にではあるが、確実に書く力を身に付けているようである。

7 成果と今後の課題

(1) 小テストが習慣化し、本文の内容を暗記してくる生徒が増えた。

(2) 「習うより慣れよ」方式で、質の良い英文に多く触れると語彙力が増えた。

(3) 自由英作文を実施することにより、英作文をなんとか書こうとする積極性が生まれた。

(4) 同じことの繰り返しでは授業がマンネリ化してしまう。生徒が自主的かつ意欲的に勉強するように、様々な工夫をこらしながら、生徒の心に響くような授業をしたい。